

2008年 診療科業績

県立中央病院

腎臓内科

維持透析患者（2008年末）

血液透析	143名
腹膜透析	16名
新規導入	
血液透析	22例
腹膜透析	2例
急性血液浄化	21例
LDL吸着	3例
その他の血液浄化	20例
内シャント術	50件
人工血管関連	5件
留置型カテーテル	4件
シャントPTA	3件
腹膜透析用カテーテル関連	8件

人工血管関連の手術は胸部外科の協力を得て行っています。腹膜透析用カテーテル関連の手術は外科の協力を得て行っています。

腎生検	20例
非IgA腎症	6例
IgA腎症	5例
半月体形成性腎炎	3例
膜性腎症	2例
その他	4例

血液内科

1、造血器腫瘍	140例
急性骨髄性白血病	18
急性リンパ性白血病	2
骨髄異形成症候群	18
慢性骨髄性白血病	8
慢性リンパ性白血病	5
非ホジキンリンパ腫	58
ホジキンリンパ腫	3
多発性骨髄腫	26
形質細胞腫	
原発性マクログロブリン血症	
原発性骨髄線維症	1

成人T細胞性白血病/リンパ腫
慢性骨髄増殖症候群

1

2、非腫瘍性疾患

19例

再生不良性貧血	3
特発性血小板減少性紫斑病	6
自己免疫性溶血性貧血	
遺伝性球状赤血球症	
赤芽球ろう	2
リンパ節炎	2
良性単クローン性γグロブリン血症	2
血友病A	2
伝染性単核球症	
血球貪食症候群	
DIC	1
貧血	1

呼吸器内科

1) 入院患者	687
肺癌	172
肺炎	222
気管支喘息	43
間質性肺炎	52
急性呼吸不全	89
慢性呼吸不全	
慢性閉塞性肺疾患	59
胸膜炎、膿胸	13
胸膜中皮腫	
その他	37
2) 気管支内視鏡件数	191
病理検体数	175
3) 剖検数	2
4) 上記以外の病理検体	
喀痰	147
胸水	50

消化器内科

上部消化管内視鏡	3,927
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）	181
内視鏡的粘膜切除術（EMR）	8
下部消化管内視鏡検査	1,674
内視鏡的粘膜切除術（EMR）	415
内視鏡的ポリプ切除術	EMRに含む

ERCP	204
HCCに対するラジオ波焼灼術（RFA）	37

神経内科

年間入院患者数	226
平均在院日数	13.9
外来患者数	5567
外来新患数	869
救急患者搬送数	446
脳血管障害	
脳血栓症	47
脳塞栓症	33
ラクナ梗塞	27
動脈解離	0
血管炎	0
TIA	14
脳出血	0

炎症性疾患	
脳炎	0
髄膜炎	4
その他	0
脱髄性疾患	
MS	5
中毒性疾患	
一酸化炭素中毒	
薬物中毒	2
内科疾患に伴う神経障害	2
変性疾患	
運動ニューロン病	2
パーキンソン病（症候群を含む）	6
脊髄小脳変性症	3
アルツハイマー病	2
脊椎疾患	
頸椎症	2
腰椎症	0
末梢神経障害	
AIDP	3
CIDP	3
筋疾患	
筋ジストロフィー症	1
筋炎	9
MG	7
ミトコンドリア病	2
PMR	1
横紋筋融解症	0
発作性疾患	
失神	1
てんかん	12
SAS	14

めまい	3
精神科疾患	3
その他	18
1年間での死亡患者数	10
うち解剖数	7

循環器内科

カテーテル血管造影検査（総数）	620
冠動脈形成術（総数）	164
（内 緊急）	77
永久ペースメーカー植込み術（総数）	70
（内 交換）	34
植え込み型除細動器 植え込み	5
（内 交換）	1
電気生理学的検査（検査のみ）	17
カテーテルアブレーション	25

小児科

NICU診療業績

（1）新生児入院患者総数	132
1）院内出生	103
（うち母体搬送36人）	38
2）院外出生	29
（うち新生児搬送40人）	29
（2）新生児集中治療管理室（NICU）入院患者総数	95
1）母体搬送	33
2）新生児搬送	16
（3）NICU入院患者内訳	
1）出生体重別	
1,000g未満	4
1,000～1,499g	11
1,500～1,999g	24
2,000～2,499g	30
2,500g以上	26
2）症状別	
新生児仮死	3
先天奇形	6
早産及び低出生体重児	69
感染症	1
呼吸障害	14
黄疸	1
嘔吐	0
痙攣	0
腹部膨満	0
発熱	0
その他（新生児メレナ、クロール病）	1（低血糖）
（3）人工呼吸管理症例（NCAPを除く）	20
（4）新生児外科手術症例	1
鎖肛	1
小腸閉鎖	0
腸回転異常	0

臍帯ヘルニア	0
ヒルシュスプルング病類縁疾患	0

外科

食道癌	11
乳癌	69
胃癌	104
胆石	49
総胆管結石	2
脾 良性	5
脾癌	8
胆嚢・胆管癌	17
肝切除	19
肝マイクロ波凝固	2
結腸	63
直腸	42
腸閉塞・腹膜炎・外傷	66
急性虫垂炎	41
ヘルニア手術	110
甲状腺	14
その他	128
計	750

小児外科

診療スタッフ

内山昌則 小児外科部長 昭和48年卒

村田大樹 小児外科医長 平成10年卒

平成20年（2008年）の手術実績ならび入院診療実績

1. 手術総数は132例でした。

鼠径ヘルニア手術・陰嚢水腫手術は66例で、臍ヘルニアは10例、大腿ヘルニア1例でした。

虫垂炎手術は13例（うち汎発性腹膜炎・腹腔膿瘍は3例）。

包皮形成術5例、停留精巣症の精巣固定術12例（両側3例）など小児泌尿器系手術は計17例でした。

肛門直腸会陰部手術は計8例（肛門周囲膿瘍5例、痔瘻1例、直腸ポリープ1例、会陰創形成1例など）でした。

腫瘍手術は10例（うち肝芽腫1例、卵巣腫瘍2例、頭部・耳介・頸部・胸腹部・四肢など6例、会陰部1例）でした。

呼吸器症状や腹満、嘔吐など消化器症状のある新生児症例を12例治療し（小児科新生児集中治療室と共同で）、うち新生児期手術としては8例（食道閉鎖症、幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病類縁疾患、腸回転異常症・軸捻転症、鎖肛など）行いました。

乳・幼児期では高位鎖肛根治術、食道狭症バルーン・内視鏡的拡張術、メッケル憩室切除術、胃

瘻造設術、気管切開術、正中頸嚢胞切除術など施行しました。

2. 他に幼児での直腸肛門内圧検査や大腸ならびに食道・胃の内視鏡検査や内視鏡的ポリープ切除術を行いました。

この他に開設以来今まで、気管無形成、食道閉鎖症A型、食道閉鎖症C型、十二指腸閉鎖症、新生児腹膜炎、小腸閉鎖症、メコニウム病、横隔膜挙上症（横隔膜ヘルニア）、腹壁破裂・臍帯ヘルニア、仙尾部奇形腫、ヒルシュスプルング病根治術、胆道閉鎖症根治術、腹腔鏡的胆嚢摘除術、腹腔鏡的脾臓摘除術、気管狭窄症、神経芽腫、縦隔腫瘍、肝腫瘍、脾腫瘍、尿管管開存症、傍尿道嚢腫、尿道脱、内外痔核、腸重積症、耳前瘻、副耳、消化管異物の内視鏡的摘出術などの手術治療を施行してきました。

3. 入院患児数は計187名で、入院治療患児の平均在院日数は5日（鼠径ヘルニア手術は1泊2日）でした。

上記手術・検査入院症例の他、腸重積症の非観血的整復術3例、虫垂炎と鑑別を要する終末回腸炎・腸炎・大腸炎など腸管炎症疾患24例（カタル性虫垂炎、カンピロバクター腸炎、紫斑病を含む）、腸閉塞症保存療法4例、排便障害・便秘症2例、吐血・下血・血便など消化管出血疾患症例7例、臍炎1例、脾炎1例、小児腹部外傷保存的治療4例、胆道閉鎖症術後胆管炎6例、小児泌尿器系包皮・精巣炎・副精巣炎6例などの入院治療を行いました。

整形外科

手術件数	全身麻酔	278
	腰椎麻酔	356
	その他	307
	計	941
手術内容	脊椎・骨盤	94
	腫瘍	70
	関節リウマチ	19
	肩関節	18
	肘関節	54
	手関節・手指	210
	その他の上肢外傷	36
	股関節	152
	膝関節	109
	足関節・足	84
	その他の下肢外傷	73
	形成手術	5

切断・その他	37
計	961

皮膚科

検査および治療等	
皮膚悪性腫瘍に対する化学療法	3
手術	
皮膚悪性腫瘍の切除術	25
皮弁形成術	2

形成外科

形成外科新患者数	580
形成外科入院患者数	89
形成外科手術件数	
入院手術	99
外来手術	202
計	301

手術内容区分

1) 新鮮熱傷	
全身管理を要するもの（非手術例6例）	7
（非手術例14例）	
全身管理を要しない局所的なもの	2
2) 顔面骨折	10
顔面軟部組織損傷	6
3) 口唇裂	1
口蓋裂	0
4) 手、足の先天異常	1
外傷	1
5) その他の先天異常	1
6) 母斑、血管腫、良性腫瘍	210
7) 悪性腫瘍およびそれに関連する再建	18
8) 瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド	21
9) 褥瘡、難治性潰瘍	12
10) 美容外科	1
11) その他	10
計	301

泌尿器科

手術数は一部検査を含めのべ446件	
腎尿管結石に対する体外衝撃波結石破碎術のべ176件（90名、中間施行回数2回）	
根治的腎摘除術	12
腎尿管全摘術	10
腎部分切除術	3
移植用献腎摘出術	0
経尿道的尿管結石摘出術	6

経皮的腎結石摘出術	1
副腎摘出術	5
経尿道的膀胱腫瘍切除術	96
経尿道的膀胱碎石術	7
経尿道的前立腺切除術	26
前立腺全摘術	20
悪性精巣腫瘍に対する高位精巣摘出術	5
包茎手術	5
尿失禁防止術（TVT手術）	0

腹腔鏡手術	
副腎摘出術	4
根治的腎摘除術	0
腎尿管全摘術	1
精巣静脈瘤根治術	0

検査	
前立腺生検	141
腎盂尿管鏡検査（または腎盂尿管造影検査）	20
経皮的腎・副腎・腫瘍等生検8件	3

体外衝撃波結石破碎術は治療3ヶ月後の有効破碎率は約80%（腎結石68.8%，尿管結石91.2%）で重篤な合併症はなかった。

抗癌化学療法	9
尿路上皮癌（腎盂・尿管・膀胱癌）	
マントレキセート+シスプラチン+5-FU+ファルモル	
ビシン	2
ゲムシタビン+カルボプラチン+ドセタキセル	2
その他	1
外来治療	2
精巣腫瘍	
シスプラチン+エトポシド+ブレオマイシン	2

脳神経外科

総手術件数	163
脳腫瘍摘出	16
脳動脈瘤クリッピング	17
血管内手術	2

胸部外科

心臓血管外科手術	症例数
先天性心疾患	
開心術	2
非開心術	0
後天性心疾患	
弁膜症	18

虚血性心疾患	17	抜歯等	16
虚血性心疾患の内訳		その他	5
on pump CABG	15		
off pump CABG	2	(手術)	
その他	2	中央手術室症例数	145
その他の手術		全身麻酔	55
胸部大動脈瘤		静脈麻酔	88
解離性	8	局所麻酔	2
非解離性	2		
腹部大動脈瘤	24	手術内容	
末梢血管	20	悪性腫瘍	28
呼吸器外科手術		良性腫瘍	10
肺腫瘍		外傷	25
肺癌	61	嚢胞	23
転移性肺腫瘍	9	口唇口蓋裂等	2
良性肺腫瘍	6	その他発育異常	6
縦隔腫瘍	9	智歯の抜歯等	29
気胸	28	抜歯等	14
その他の手術	33	その他	8
呼吸器外科手術のうち胸腔鏡手術	68		

歯科口腔外科

(外来患者数)	1563
智歯・埋伏歯等	292
抜歯等	252
その他	147
顎関節疾患	174
腫瘍 良性	51
悪性	23
その他	2
嚢胞 顎骨内	44
軟組織	34
炎症	116
外傷 骨折	35
歯牙脱臼等	32
軟組織	118
粘膜疾患	195
先天・発育異常	42
その他	6
(入院患者数)	193
悪性腫瘍	53
良性腫瘍	7
外傷等	26
嚢胞等	23
炎症等	26
口唇口蓋裂	4
その他発育異常等	3
智歯・埋伏歯等	30

産婦人科

丸橋 敏宏（診療部長）昭和52年卒
大野 正文（産婦人科部長）昭和55年卒
有波 良成（産婦人科部長）平成元年卒
以上3名のスタッフで診療を行った。

産科：総分娩数は385例あり、そのうち22週以降の死産が3例あった。その他に12週以降22週未満の流産が14例あった。流産の内訳は中絶希望8例、絨毛羊膜炎・前期破水4例、頸管無力症1例、胎児奇形1例であった。死産の内訳は30週双胎第一子死産、致死性四肢短縮症、子宮内胎児死亡がそれぞれ1例ずつであった。何れも自院の症例ではなく紹介による診療であった。

死産を除く382例の分娩の内訳は正常経陰分娩が218例、鉗子分娩は17例、帝王切開分娩は147例であった。

前回帝王切開術後の経陰分娩は6例の希望があり、5例は成功し経陰分娩となり、1例は分娩第一期分娩停止のため緊急帝王切開となった。立会い分娩は139例で行われていた。全くどこにも受診していない妊婦の飛び込み分娩、自宅分娩後来院した妊婦、他院受診中だったが自宅分娩したため当院受診を指示されて来院した妊婦、妊娠初期に数回受診したきりで分娩時に来院した妊婦がそれぞれ1例ずつあった。余談ではあるが最近話題のモラルや意識に乏しい妊婦はここ上越にも確実に存在している。

帝王切開の内訳は緊急帝王切開66例、選択的帝王切開81例であった。その適応は前回帝王切開37例、双胎妊娠23例、骨盤位14例、早産14例、妊娠高血圧症候群・胎児発育遅延13例、胎児機能不全13例、前

置胎盤13例、分娩進行停止10例、子宮奇形・子宮筋腫核出術後4例、常位胎盤早期剥離3例、母体合併症2例、胎児奇形1例であった。

母体搬送により分娩に至ったものは47例であった。内訳は絨毛羊膜炎・前期破水による切迫早産17例、妊娠高血圧症候群・胎児発育遅延14例、常位胎盤早期剥離3例、前置胎盤4例、胎児機能不全3例、子宮内胎児死亡3例、胎児奇形、穿通胎盤、飛び込み産がそれぞれ1例ずつであった。また、当院より長岡、新潟に搬送したものが2例あった。これは新生児集中治療室が慢性的に満床状態にあることから当院での分娩が出来なかった例で（昨年と同様に3例）このような症例をなくすことが必要となっている。

婦人科：上越地域の手術症例が集中する施設であり、554例の手術を行った。良性疾患に対する腹式子宮全摘術は93件であった。悪性疾患に対する子宮全摘術は16件であった。主に子宮体癌が対象となる腹式子宮全摘・両側付属器摘出・骨盤リンパ節郭清は15件、子宮頸癌Ⅰ期が対象となる広汎子宮全摘術は1件、進行子宮頸癌が対象となる広汎子宮全摘術は6件、子宮頸癌初期の挙児希望者に対する円錐切除術は35件であった。子宮筋腫核出術は19件であった。子宮脱に対する腔式子宮全摘・腔形成は31件、腔形成・腔中央閉鎖術は9件であった。卵巣に対する手術では付属器切除26件、腫瘍摘出40件、悪性卵巣腫瘍に対する手術は23件であった。子宮外妊娠手術は8件、子宮頸管縫縮術は11件であった。その他、再発癌に対する手術が14件あった。産科手術として帝王切開術147件、流産手術31件、人工妊娠中絶術14件、その他の良性手術は15件であった。なお腹腔鏡手術は行っていない。

眼 科

白内障手術	218
白内障同時手術	29
硝子体手術単独	30
網膜剥離手術（網膜復位術）	21
緑内障手術（線維柱帯切除術）	2
眼瞼手術（内反症、眼瞼下垂、腫瘍、霰粒腫など）	27
結膜手術（翼状片、腫瘍など）	7
眼外傷	2
その他（眼内ガス注入、斜視手術など）	11
合計	347

放射線科

脳腫瘍	7
頭頸部腫瘍	34
肺癌	40
食道癌	41
乳癌	55
前立腺癌	19
その他の泌尿器癌	10
子宮頸癌	11
肝胆膵腫瘍	9
リンパ腫他	15
直腸/結腸癌	13
骨軟部腫瘍	1
その他	4
姑息治療	110
甲状腺機能亢進症	6

麻酔科

全手術件数	4,475
全身麻酔	1,614
硬膜外麻酔（仙骨ブロック含む）	33
脊椎麻酔	1,173
静脈麻酔	110
神経ブロック	176
局所麻酔	1,359
無麻酔	10
麻酔科担当症例	
全身麻酔	1,614
硬膜外麻酔	33
脊椎麻酔	312
静脈麻酔	2
神経ブロック	4
局所麻酔	0
緊急手術	262